



町人富久路

五





町人囊卷五

童女の青物語

鳥鷗

小鷗

鷗鷗

鷗鷗

報なる人か水はよい身を浮く息ひあつ何の
 苦勞にあく版の下なる魚と安くと取て食ひ終ふ
 ものれ我の終日花あつたても食ふあつたつ
 身を乾く魚又の菓子かゝ紙を分ても皆主
 有て守りふいふいひひひ中てふれお得
 ぶ事かに此おふ食つてふふとて若く疲れて
 羽を息あんとてふふ止れい又脚の旁あり身
 とまひて水へ入る魚はさるととれい魚め水



吟ふあれ美しし鷗殿や飽渌より人言ふぞ此方す
施し後じ吝惜ゆふふといふ鷗言て云鳥敏く
ふふふいふいふとけり人言ふぞ水は渌て何の
若くならて食ふ得たりといふいふいふ水の中
くと是を働かす事かき渌なり其苦勞大なり
ふわい其と異し其の物なれい中へ容易く取
得る事うじよより人言ふぞ水中の働かすこと
お遠わつといふいふ大海廣うた終日魚いぎ
くと食ふなり其の或い風波くけきき河の終日
巖穴く食ふなり其の常におもわりを角うた世に

自由の豊なり其のいふ中へゆふ施ふよ一は餘す
そゆふいふいふ清身いふいふいふいふいふいふ
秋の夕ふれそゆふいふいふいふいふいふいふ
飛去るいふいふ人の世にを極まりていふいふ
或人の云公儀と思はれし事いふいふ人の第一肝要
なり亦也公の字いふいふいふと後て天理なりで私る
事と公といふいふ天子いふ万民の上の指針いふ天道の
清名代いふいふいふ天道と思はれし事いふ万民と教
識り得る其の其は方は或る天理のゆふいふいふ
清身の私いふいふいふいふ禁中いふいふ公儀

とい申奉る也禁中様と執事御前會行奉
をい公事といつゝ又世俗は晴ある所い出る事と公界ふ
出ある所禁中へ参るを武家の御代となりて
よりの將軍家の御事いふる公れ字と分て公儀
といふ也將軍家の天子の御名代いぬ結ひて天下の
政道をばささる結ひぬ也天子將軍といふは天道
ふささる結ひてはな禁制といふ結ひ四民は天子
將軍いふるは奉てはな禁制をばささるて天下
太平也其はな禁制い何事といふぬれ一切の惡行
なり惡行の第一い何事といふぬれ送なり乱送の

始い何事といふぬれ是者也不忠不孝の五逆十惡
の類い皆此者なりをわたりぬ也律制いぬ
ぬる條目計い山金結つ此外のはな禁制い國ふ
より時代は遠ていなりぬれ此天理のはな禁制
い万代不易の定はて日なといふぬれ唐天皇河
業陀國といふたなりぬれ天理のはな禁制い
るまほむ人を公儀と守る人といふぬれ世俗は風俗
花樣なりぬと公儀者ありといふ結ひ也といふ
世人といふものなりぬ結ひ
或人のいつる町人といふ先祖の墓地をく餘りに掘ひ

ていふ所の事唐土といふ母先祖の墓地風水悪き
時に其子孫好むの風水よければ其子孫繁栄栄に
しつて其吉は公撰する也上代よりなる也聖賢
の風水と撰ひ給するは子孫栄々の福なりといひ
唯末代よりて田地あふなるは氣の堅固
なる地を考へ撰ひて葬るは又母先祖の體
の速く腐損するを痛て孝公の誠を用ゐる
子孫の富貴を求り給ふといひ此故に宋朝の儒
者も風水の吉を撰するを諺に金鑑の書
みたり子孫は盛衰禍福の葬地風水の吉を

いふは道理は日本の天子攝家乃清廟地盡く風
水宜しきありては子孫今も公絶給ふといふ
又母先祖の死體朽損を以て金は時に其子孫幸ひと
受死體全の事いふ子孫好むといふ日本は武軍
陣と討死と首と歎ふといふ死骸の形は腐敗の
水中に没す或は火葬して骨を焼損する人け子
孫の盡く貧窮ありて禍を受へる事あるは實に
かたきといふや鬼角人の禍福は先祖の葬地の
吉否よりなる也いふ事いふ事いふ事いふ事
かたき人の死骸とて朽損するといふ事いふ事

む親妻子堅固也是孤のつてあやうおよりいひあやう
くる是末の親は相遠める後いそんや雄鶏の宵鳴
あゝ常此来いて何の怪しきものわは書ふ牝雞
乃晨とる孤家のけくる也といひえい女人は男とに
至て國家の政道に只とるれ親の禍の幸也といふ
を世俗といひあやういふ諺とあてあふて女を識
わらうの也楚辭は金のつて孤の終の終の終の終
い世を金のつては祥といふ也日本といふ書
まゝありつては金といふは金といふは金といふは金
おひ不仕合乃何ぞあはれ合をあらうといふ兆なりと

いふ土中より金興の一氣金の苗てはあやういふと
或人のいふは火車といふは火車といふは火車といふは火車
なるの一生慳貪とて慈悲をあらうの也といふは火車といふは火車
後世で世に海り或は餘多打撃して國家を奪ひ
一軍は火車といふは火車のつてはあやういふと
敵は人目色とてはあやういふは火車といふは火車
いふ貪を貪を貪の華といふは火車といふは火車
結句火車といふは火車といふは火車といふは火車
結句火車といふは火車といふは火車といふは火車
のまゝいふは火車といふは火車といふは火車

教をうへにけしむは佛神をうけて新加持と
 今い不幸幸福の事有て此種と常に相念する事
 もまた人の幸福なる有る此理にましまるる
 唐土日本にて大悪人と稱する数後して此死後火
 車にのりて國を又吾人へ奪ひ去る人はい不幸
 横難の災に罹るるも多し是といふもや雷ふれ
 て死し火車あつてもいふも吾人へ奪ひ去る人はい不幸
 或人れをいふ人國を別はわける事と神明れ智
 をうけて國をいふと吾人へ奪ひ去る物に幾の道
 理あるか必となふは但たあらうて是は

是い悪あり人の智慧を別して知る程の事をい
 ふ致し圍とよりけするいふは能なるも又所人の
 身上は過る商賣とてまた商人事と相い圍をとり
 占を七損徳致はる事ありた道理は遠なる
 故に其占ある吉ありといふ者ありけり身代不
 相致の相いと企てまた富んと相い公則天理は
 此よりや此圍や占い必とあるものありけり
 なるなりと有りて天理は思ふなり人のいふや
 守るれを致し占いふもまた占する事ありて
 占るもの也盗人の今夜い盗入て仕とあるは損

とふく然らざるべし世に多しと云ふなり河豚汁を
食ふと色々れぬといふやま程なつひは事
あるに似てあるに似ていふも又病人ある家必
と方角の者も然らして古の方角に醫者とてしる方
角の醫者とてしるは此の方角を名醫に稱してある
方角を珍重とてしるを得に醫師多しとあるに
いふも田舎の村里あるに醫者二人といふは或は
方角と稱する事とあるに似ていふも病室に後とある
に似るに泉別堀のく一方大海とて人家をたたく
日本ふ多しと云ふと醫者の方角を然らして西方乃

醫者れあるに本漢からいふに四國より醫者とて
いふや四國土佐の南れ海なるなりと南方の醫
者に似ていふに海に琉球國からいふに醫師といふ
かより外いふにさきにはいふに多しなりぬ

或學者のいつに陰徳の事問ふ人けはさすなり肝
要なるに難しと云ふに唯今貪む人の百兩を金と拾
いて其主を尋て金返すと事あるに此人をい神
といひてさきふにさきも貪むる人いふに及んで富
か人たりた百金と拾ひに主を待て返さるる今の
世にい稀なりと云ふに安んずる人なりぬ

附今學者の所人なりん哉人銀子百枚の道具は急
 用れ来る者て銀子十枚にてはつらばとてんは慥に
 後銀子百枚の値ある道具なりとてんは必と十枚は
 してあらん事必之也とてんは慥は百枚といふは道具
 ありんは下直といふ賣物より大分の利を得んは道
 小わかれは是は銀子九十枚は賣して買下といふて銀子
 十枚は分と利徳とで九十枚は買あつて是を後乃
 學者とて賢人といひても不足なりとてんは利ふこと及
 なくは常に此志は失ふことありは強の神民といひつて
 といふは商人のみは我身の及あれとてんはくさといひ

て町人袈裟に入る

或人^{あるひと}は云^い所^{ところ}人^{ひと}利^り殺^{ころ}なり侍^{さむらい}利^り殺^{ころ}なり所^{ところ}人^{ひと}の利^りを捨^{すて}て名^なを
専^{せん}らんとする所^{ところ}人^{ひと}の身^み代^{しろ}をばすもの^{もの}は捨^{すて}て名^なを捨^{すて}て利^りと
争^{あらそ}ふとする所^{ところ}人^{ひと}の身^みを亡^なしむるあり名^な利^りと云^いふ求^{もと}むる
道^{みち}を知^しる人^{ひと}といふ名^な利^りの四^よ民^{みん}の目^め用^{もち}也^{なり}粗^{あら}人^{ひと}あては
けめて名^な利^りを離^{はな}れり^{なり}と云^いふ^{なり}の^{なり}也^{なり}といふに
ある人^{あるひと}は云^いふ所の^{ところ}なり^{なり}神^{かみ}といふ靈^{たま}驗^{けん}なる觀^{かん}音^{おん}様^{よう}なるふ二三
日^ひつても成^{なり}てん^{なり}といふ^{なり}お^おう^うと云^いふ事^{こと}も笑^{わら}ふる^{なり}も
多^{おほ}くは男^{おとこ}女^めの輕^{かろ}い^{なり}は海^{うみ}の輕^{かろ}い^{なり}の^{なり}上^{うへ}根^ね乃^{すなは}奉^{ほう}
行^{こう}頭^{とう}人^{ひと}も^{なり}ぬ^{なり}う^{なり}と云^いふ^{なり}の^{なり}なる^{なり}小^こ佛^{ぶつ}神^{かみ}の奇^き特^{とく}不^ふ思議^ぎなる

う被くはわいひ給ふるか清奉約よりうくさ
 事と新証彩ひなり上なる金徳也佛とて佛神め
 かのそを但佛神と名給ひて和之同塵され其
 威光弘く給ひて慈悲の清肉體して万民を憐れ
 り奉さけしもの中にも清くされたる和之同塵
 とてうといふ人ありきあり塵弘く給ふ事い
 ても清く華弘くありきありといひある下れた
 り奉さけし徳の名といひて給ふるを同塵とい
 へり今時の立教は同塵とて給ひて慈悲あり
 佛神より清くと名をいひたるの教は偶ある事小

こそわれうけりる神仏清浄徳はかゝるん後を
 綱のちありてみらぬとありてありとありと
 世ひありて我いのとも又古きにありともや新か
 ずみありふとありぬとありてありとありと
 有るはありのちありとれん

わる人のいつか唐土の古き書は日本れり公書するわ
 多し其の中に日本は貨直ありて盗賊ある國ありと云
 へる書多し日本上代の人いふに直貨素ありて盗
 人ありと云へり又近代の唐の書は日本は
 盗賊殺害ありと云へり又國ありと記するを記

を待てつぬははらふと心海にのちけりてあるを
かくはらふの備にあらせらるふ白く縁備へる人も後
うさうつものをもせめてやま

ある町人け文盲なり實子かくて孝子なるなり此子学
問は志して聖書に読むなり武河子聖子のうらに揚氏なる
我ふすこふとさうりしとみあふるぬふさうりしはく
くと國々あつたといふといふ種く其前公終く合
然とて昔の聖人賢人となんのもをまわらるるなり
りしてさうりぬと書する金く入れぬふわに我汝
ふやふいふんとの事也まれりおとめらんぬふわ

とやといて感涙とあけつて楊氏と書するを得
なりいふなり親なるをめて何るかとててもはる
のうらにるも悟るる常に信切のをわれいふといふは
ある有職者のいふ謚の院号なり天子皇后のいふ
り其後將軍家攝家大や家院号あり二百年
以来大名小名も院号あり五十年此の町人百姓
なにも多く院号付するにあらり時世のあらうとい
ふあり浅ましく勿体なるも也其始あらつたのも
よりて富る且那への機嫌なり院と謚号ありと
且那よれるといふ得て羨むつらとていふに付る

みあていつれ世のあらうとあつたもの也日本つて
乃記録書籍あり庶人^{しやうじん}も院と稱^{なづ}てくちくちなるや
わらふて一時^{いとき}のやうに帰^{かへ}てまゝ賤^{せん}の處^{ところ}をさゆへ
おろ名^ないふやうにいつか族^{うぢ}もわれた大なる僻言^{ひくごん}
ありつゝ後一理^{いちり}は歸^{かへ}てまゝ賤^{せん}の處^{ところ}をい何ぞ富^ふ限^{げん}
なり具那のふれをゆゑんや何院殿何大姉を
其品^{しやう}いふやうにさう此^こは後^{のち}に財宝次第^{さいほうしだい}と
何如^{いか}に何大姉をい何人^{なん}も早^{はや}する何^{なん}も人^{ひと}と
わらふ一^{ひと}の富^ふ限^{げん}は百姓^{ひやくしやう}ひらり富^ふ限^{げん}の餘^{あま}
ふは判官^{はんくわん}とせんとつては源^{げん}の判官^{はんくわん}殿^{でん}後^{のち}は幸^{さい}か

うり物をと人のいふたれいけめとていふ業^{わざ}平^{へい}にわ
かきんとて中將^{ちゆうしやう}と付^つくやいおし又^{また}居士^{こし}とて道^{みち}
徳^{とく}有^あ人を稱^{なづ}てつゝ又^{また}に道徳^{みちとく}をてい官^{くわん}禄^{ろく}を有^あて
富^ふまなり人と稱^{なづ}てつゝ又^{また}に富^ふまといふ官^{くわん}禄^{ろく}祐^{ゆう}
なり公^{こう}より町人^{まちうぢ}をいふは金銀財^{きんぎんさい}物^{ぶつ}なりとも富^ふま
といふは貴^きれ字^じの官^{くわん}位^いなり公^{こう}より富^ふまなり人を
稱^{なづ}て居士^{こし}といふ事^{こと}も官^{くわん}禄^{ろく}有^あ人の事^{こと}也況^{いは}や士^しと
い儒^{にう}者^{しや}学者^{がくしや}の位^いはわらう人をいふといふ唐^{たう}土^どといふ
道徳^{みちとく}なりとも官^{くわん}禄^{ろく}有^あなりの人^{ひと}は又^{また}有^あなりいれ
信^{しん}士^し居士^{こし}と稱^{なづ}てとも家^{いへ}也日本^{にっぽん}の町人^{まちうぢ}百姓^{ひやくしやう}何^{なん}乃^{なん}

位より下りて徳ある人を則ち信士とて非禮
あつた塔婆の銘なる所人代俗名何れ清門尉何れ
清尉と書る所後尉は衛府の官名ありて五位六
位の人よりされ尉といふは理は或所の番を即
狼藉者なり人をあやまりたるふくはぐあひて
そらむい書を命の尉家のありと名をて働
けりてあつたれりいふやとあり

或人の云分限者と令持といふ同一の云分限といふ分の
限りと書ておのより分れ一分おののうきりありを
をわて身の云分限と書るい相違れりいふて

過分の財を私欲に身と静ふて公に安樂ありて
くはんと分限者といふは令持といふは身と安する
事と不知令持公に公より集る事と樂とていひて
公より静なりいふは公の飽とて公より公に令
おといふ同一の云分限と書るい相違れりいふて
かり者七は公より公に公長者のいふは公より公の
評判あり此公長者のいふは令持のいふは公長者
のいふは道を公に公より公長者といふは公長者
者と兼ねは師のいと公長者といふは公長者と
と町人のいふは公より公長者といふは町人のいふは

ふはしめ識の教をたふふよりてあらうは唯分限の三
字ありしむおとる一と語れ

或は者の云聖人の詩詞の貴賤上下いふよりていつね書
いはしめ語れと人の教誡あるは四民の
通用の道理なりとあらう其にあらうとあらうは多
く著るなりと人の教誡より上なる人の教誡で町人
百姓は「あらうとる教誡を町人百姓の人はあら
らうとるのあらうとる人」をあらうとる身なりは
庶人のあらうとる其風俗あらうとて天下平なるを
といひ民をいふとる一知なりとるはとて庶人の

の教をあらうとるもの也但孝悌は主の所は用ひ地の利
因て身を謹し用と節して父母と孝するは庶人の考あり
と聖人の作をあらうとるをばとて町人百姓の所
教有るは詩詞也主の所は用ひ地の利因ていふ
百姓農業のふあり商人職人といふは主の所地の利
を考へといふは用ひ節して身と謹しむは四
民の第一の識也とて町人の用ひ節とるは
わたり肝要なる事也町人の身をて一人を懐と事
れあらうは此用と節とあるは多なりはわたり先角
質素儉約をすはとて節のあらうとる

深き理の所人百姓のき同い此一句と流るる
 者南のて人への誠を思ふれらるる海に下
 國家と流るる人へいふも思ふれらるる教なる
 此聖人の二句はいふも思ふれらるる書にうけ
 る事所人思ふれらるる事なり
 わるい所の人百姓の儒者のいふ事二年の喪
 かなはしむる事用ゆる道もあつたといふ
 日本相承なる服を令の世はさるるいふ母の服
 忌めいふ十日の精進とて世間にあつた十日といふ
 孝の義とすんといふ人の酒飲と何とて思ふ味

のもの公食を乾魚公食して生奥のきといふ食
 ども味も味い五辛の類の壯年人への嬌欲とて
 此のあたりの思ふれらるる但も人の病氣なる人への害
 生るるふ少酒とのいふ肉の類と折と用ていふ類
 のこととていふ又諺樂舞れ方とてあつた神前
 来はひけいといふ事十三箇月也是我相服と
 けはるるまゝいふ所人百姓のいふ十日の間か出て
 後世に思ふれらるる飢乏の類も多うけし其日
 けじの貧乏なるものといふ日けいなる事關のけい
 する事あれい思ふれらるるてあつたいふに唯心樂と

外にたゝるゑの角のせきとて内をのほりて
なるゝふ勤ちる事へ貪賊たる士民といふも
仍いふなるも又一日といふ二年に一日也親の事自
といふはふといふ要百されい萬を用ふといふ毎月
日儒道神道といふなるも一日の教い合ふとい
ふも何節達といふ教の町人百姓といふ世を自といふ母
の終る終る一日されい終るも一日の教い合ふとい
ふられぬに潔斎といふ家業職分を分て一日の終る
か事けいといふ其役候と勤ちある何れい人の
目ふちあるといふてふのいふれ情いあるといふも又

位牌をあるといふといふ二日程なるに潔斎といふはあり
いふにふなるといふ斎といふも斎の字に別ものといふと
よみて潔斎といふ佛はといふ精進といふ儒道神道
といふに潔斎といふ情いあるも毎月の日といふも
といふに精進といふ佛はの精進の眞肉公舎といふも
これに容易あるも儒法の潔斎の眞肉公舎といふも及
といふも一切の味いけいといふの公舎といふも雲
といふ身代なるも美食といふといふも我身の廉食
沈着の物といふといふ是古人のいふて澤恩報謝の
候といふといふといふ

若の者多^し是^も今^も金^も有^る人^のの^もあ^て我^はも^のの
一^は銭^もの^も者^はは^い傾^く城^の般^のの^もは^い付^ける^もあ^て
何^れと^も輕^くの^もわ^りに^は抗^がの^も付^ける^もと^も理^のを^も去^るる^も
つ^れに^は牙^のの^も少^く金^も持^てる^もと^もい^ひ小^の腹^のと^もい^はる^も
わ^りの^もい^はい^は簡^の畧^のと^もい^は何^れと^も略^のと^も後^のと^もい^はる^も
誤^のと^も簡^のの^もい^はる^もと^も後^のと^も字^のに^て一^の切^のの^も物^の毎^のに^は要^の
なる^も後^のの^も致^のと^も不^の計^のと^もは^いを^も致^のと^も致^のと^も致^のと^も
よ^り事^のと^も略^のと^もは^い簡^の略^のと^もい^は其^の要^のと^も撰^のと^も用^の
を^も略^のと^も是^も此^の簡^の畧^のの^も後^のに^は貧^の窮^のと^もい^はる^も
な^ると^もあ^ての^もつ^れに^はわ^りと^も物^のを^もい^はる^もで^は勉^のと^もい^はる^も不^の及^の

唯^の富^の貴^のと^も人^のの^も情^のと^も字^のと^も道^のと^も簡^の畧^のと^もい^はる^も付^けに^は
い^はる^も下^のと^もあ^ての^も簡^の略^のと^もい^はる^もの^もの^もり^の聖^の賢^の乃^の道^のと^も
簡^の略^のと^も先^のと^もな^ると^もの^もの^もり^のと^もい^はる^も
或^の人^のは^い云^ふ樂^のと^も二^のつ^れに^は真^の樂^の俗^の樂^のと^もい^はる^もや^も苦^のと^も又^も二^のつ^れに^は義^の
苦^のと^も欲^の苦^のと^も也^も天^の地^の人^の物^の乃^の理^のと^もと^も其^の道^のと^も樂^のに^は
真^の樂^の也^も飲^の食^の色^の欲^の遊^の具^のに^は俗^の樂^の也^も四^の民^のお^のく^も其^の所^の作^の
と^も勅^のて^も五^の倫^のの^もま^いに^は満^のる^もに^は義^の苦^の也^も分^の際^のと^も安^のす^も
事^のと^も不^の得^の是^の事^のと^も不^の知^のと^も終^の日^の求^のめ^もて^も止^のる^もに^は欲^の苦^のと^も
と^も真^の樂^の義^の苦^のに^は天^の事^のめ^もて^も人^の間^の自^の然^のの^も道^のを^もい^はる^も通^の
も^のん^のと^もして^もよ^りに^は俗^の樂^のと^も欲^の苦^のに^は人^の心^の乃^の私^のより^もあ^てる^も

て執て遁^のとよとに義苦の實の苦のわに樂其
中^{せんらんふ}のり俗樂ははるの樂のわに苦其中の有る樂は
殊^{つこ}貧富と遁ては求る所は則ち俗樂は殊^{すふ}貧富の
隔て有る富まふ多くと然に少くは所人等俗樂
を秘する真樂と執するといふは我々といふても
真樂と云ふはかりなり俗樂こそあるはわに
といひ飲食を欲乃正と得^{せん}は是則真樂ありと
乃地^ちまのたれ氣色中といひて多いてやま

